知恵の森に 橋をかける

知恵の森へようこそ

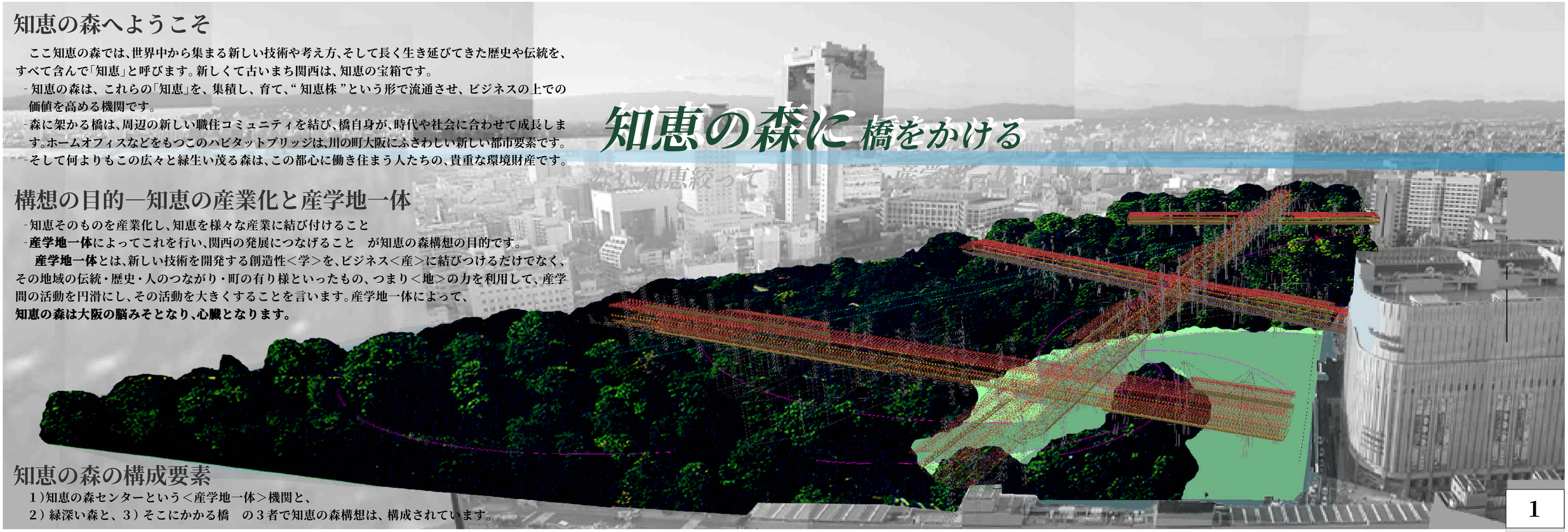
ここ知恵の森では、世界中から集まる新しい技術や考え方、そして長く生き延びてきた歴史や伝統を、すべて含んで「知恵」と呼びます。新しくて古いまち関西は、知恵の宝箱です。

- 知恵の森は、これらの「知恵」を、集積し、育て、“知恵株”という形で流通させ、ビジネスの上での価値を高める機関です。
- 森に架かる橋は、周辺の新しい職住コミュニティを結び、橋自身が、時代や社会に合わせて成長します。ホームオフィスなどをもつこのハビタットブリッジは、川の町大阪にふさわしい新しい都市要素です。
- そして何よりもこの広々と緑生い茂る森は、この都心に働き住まう人たちの、貴重な環境財産です。

構想の目的―知恵の産業化と産学地一体

- 知恵そのものを産業化し、知恵を様々な産業に結び付けること
- **産学地一体**によってこれを行い、関西の発展につなげること　が知恵の森構想の目的です。

産学地一体とは、新しい技術を開発する創造性＜学＞を、ビジネス＜産＞に結びつけるだけでなく、その地域の伝統・歴史・人のつながり・町の有り様といったもの、つまり＜地＞の力を利用して、産学間の活動を円滑にし、その活動を大きくすることを言います。産学地一体によって、
知恵の森は大阪の脳みそとなり、心臓となります。



知恵の森の構成要素

1）知恵の森センターという＜産学地一体＞機関と、
2）緑深い森と、3）そこにかかる橋　の３者で知恵の森構想は、構成されています。

知恵の森センター

センターは以下の4部門からなり、産学地一体の要となります。
・知恵開発部門(学との連携)
・仲介部門(一体化)
・大阪知恵株取引所(産との連携)
・エリア維持開発部門(地との連携)

＋

森

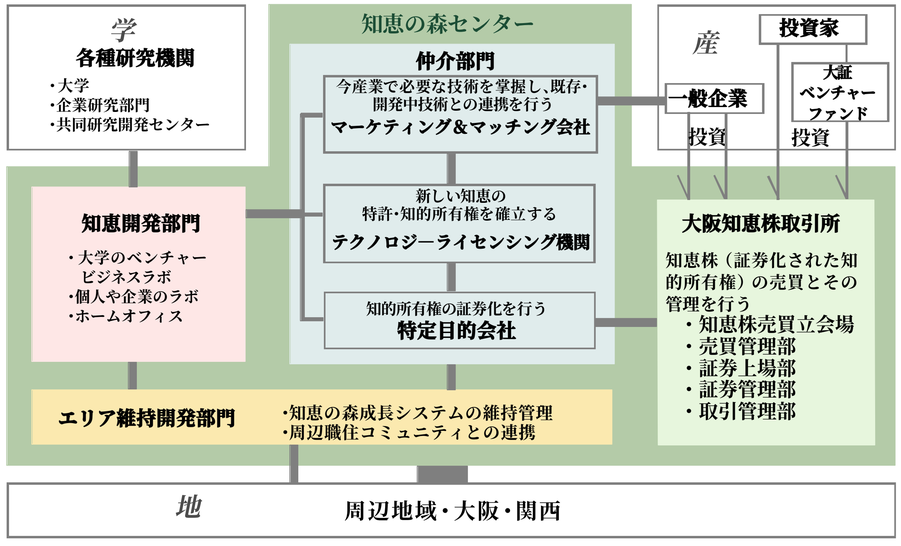
敷地全体の80%が、緑あふれる森です。ここに育つ知恵を護る、鎮守の森を思い浮かべてください。梅田周辺が、職住一致の都心として、発展するために必要な、共通の緑の資産です。

＋

橋

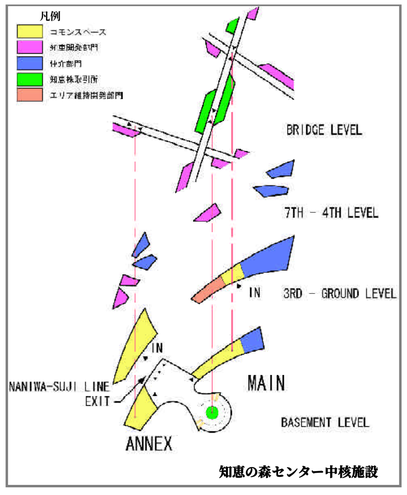
橋は、森と周辺地域を結び、新しい職住混合コミュニティを育てます。同時に、橋自体が、ホームオフィスなどとして機能するハビタットブリッジです。さらに時代や環境に合わせて、成長可能なシステムを持ちます。

■知恵の森センター～＜産学地一体＞の要



■森の成長システム

森のイメージ

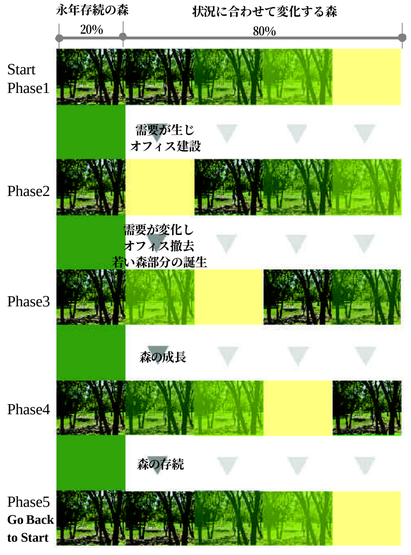


知恵の森センター中核施設

1）敷地全体の**８０％が、常に森**です
2）**森の４分の１（敷地の２０％）は、永年存続の森**とし、樹齢の長い大きな樹木の植わるエリアとします。残りの**４分の３は、状況に合わせて、移植、伐採、新規の植栽**などを行えるエリアです。
3）死角のない安全な森にするために、樹冠の広がる、下枝の少ない高木を中心に選びます。セキュリティを十分考慮して、剪定・管理の基準も設定します。樹種は、関西に自然に育つものばかりです。

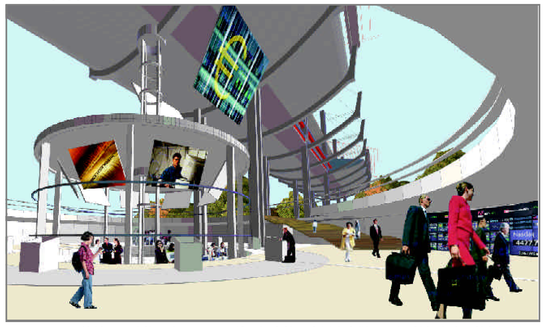
森の成長サイクル概念図

サイクルの管理は、エリア開発部門およびランドスケープ委員会(外部ブレイン)が行います。



■大阪知恵株取引所

大阪知恵株取引所では、**知恵（知的所有権）を株化**して、それを一般証券のように投資対象として流通させます。 **世界でただひとつ**の施設です。



大阪知恵株取引所売買立会場／プレゼンテーションステージ

JRなにわ筋線駅の改札を出ると、目の前に知恵株の売買立会場があり、株価上降の情報を得たり、コンピュータキオスクで実際に売買を行ったりできます。
ここはまた、新しい知恵のプレゼンテーションを行い、その価値を情報として公開する場でもあります。上部の緑はうずまき広場です。

うずまき広場（先行開発部分）

JR、阪神、阪急方面から地下道で知恵の森に向かうと、レベルの上り下がりなく、屋外のうずまき広場に出ます。先行開発時には、ここを中心として、知恵の森センターと基幹橋の一部とが整備されます。
うずまきの中心には、知恵株売買立会場の上部がのぞき、緑の空間を楽しみながら、知恵の情報に触れることができます。